

2022年度 事業計画書

2022年1月1日から2022年12月31日まで
認定特定非営利活動法人 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会

1 事業実施の方針

1)事業内容

認定NPO法人 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会(以下、本会)の基本的な事業は、定款に照らし合わせ下記の通り。

(事業)

第5条 本会は、第3条の目的を達成するため特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行なう。

- (1) 鞭打ち症(病気の名称でなく患者が感じる症状)になりうる原因の資料の収集及び調査研究。
- (2) 「脳脊髄液減少症(低髄液圧症候群)」の知名度普及活動
- (3) 「脳脊髄液減少症(低髄液圧症候群)」に関する情報を諸外国に発信。
- (4) 日本国内の関係機関・団体との連携・協調
- (5) 本会が企画する出版物の販売
- (6) その他、本会の目的を達成するために必要な事業。

2) 2021 年度の事業は非営利事業・営利事業・助成事業 この3本柱には変わりはありませんが事業報告でも記述したが誰も予想しなかった世界的新型コロナウイルスの影響で計画していた特に助成事業の幾つかの事業は中止せざるを得なかった

第六期助成事業(2020年度)は3月31日終了予定ですが第七期は(2021年度)は延長申請を2月21日現在おこなっております。

第八期助成事業の採択の可否は未定ですが、助成金の採択有無にかかわらず、20期 日本脳脊髄液漏出症学会および関連団体と歩調を合わせ、初心に戻り、より多くの国民(患者家族)が参加できる活動を目指していきたい。

具体的:この病気が提唱され 20 年、恩恵を受けた我々患者は潜在患者数の多さを知っています、また専門医の実績をみると小児若年者や交通被害者の救済に多大なる貢献をしている、しかし専門医の苦悩や苦勞などが現実的に報われていない。

本当にこのままで良いのかと改めて思っています。福山医療センター守山英二医師の雇用延長を求めるオンライン署名数をみても

ここまで一人の医師を国民が求め、また わが身にかかる負担を顧みず、点数を引き上げに賛成してまでこの治療の広まり存続を望んでいる、こういった声に応えるのは 患者会？ 政治家？ 国？ 私は政治家 国が抜本的に動かなければいけないと感じております。

多くの国民の声を形にするのが政治家であるはず。10年や15年の声ではない20年続いた声である。まずは与党を中心に20年の声を届け、患者救済の道を切り開いてまいりたい。総会で審議してより具体的な計画を発表したいと思います。

細かい事業計画については「別紙」に詳細を書いていますので参照いただきたい。

2 事業の実施に関する事項

1)特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支払い 見込み額(円)
目的を達成する為に非営利事業(活動) ○資料の収集及び患者実態調査 ○講習会 セミナー開催 ○ ネット情報発信事業(知名度)	<u>定款(事業)</u> 第五条にかかげた目的を達成する為に行う事業の内、非営利活動をいう。 <u>世界発信事業は引き続き実施</u>	1月～	全国	担当: 全社員	不特定多数	1,700,000 昨年 1,190,542

<p>度向上など)</p> <p>○ 各地方行政への働きかけ</p>						
<p>助成金事業</p> <p>目的： 日本が世界にさきがけて リードしている脳脊髄液減少症の情報をネットで世界に発信することを目的とする。</p> <p>本会企画の出版物の販売</p>	<p><u>日本財団の助成金第8期は100万円申請(助成金採択時)</u></p> <p>目標： 1. 2021 度末までに連携がとれなかった 行政との連携 4 府県ピンクのバナー活動 2. 数回のシンポジウム開催 3. その他の事業(診療報酬アップ) 小児対策を開始する 総合マニュアル本完成させる。</p>		<p>各事務所</p> <p>各地方</p>		<p>不特定多数</p>	<p>1,500,000</p> <p>昨年 1,770,429</p>
<p>営利事業</p>	<p>○患者の救済や支援となる本を企画する</p>	<p>年内2冊 2冊は企画が通っている DVDは数枚</p>	<p>各事務所</p>	<p>5名以上</p>	<p>購買希望者</p>	<p>100,000</p>
<p>営利事業</p> <p>2) 患者相談準備費 (病院紹介事業)</p>	<p>オンライン相談 メール・電話・直接相談及び病院の紹介事業。</p> <p>※オンライン直接面談業務について2時間(会員)無料 交通費必要経費は別途 <u>会員以外は有料なので収益事業となる</u></p>	<p>随時</p>	<p>各事務所</p>	<p>3名前後</p>	<p>不特定多数</p>	<p>100,000</p>
<p>事業によって 非営利活動と収益事業に別れる その他、本会の目的を達成するために必要な事業。</p>	<p>本会存続の為の活動費確保</p> <p>裁判応援の事業 弁護士特約 (中井作の意見書が通るようになった。反吉本意見書は効果が大きい)</p> <p>・その他(下記参照)</p>		<p>各事務所</p>	<p>他3名前後</p>	<p>不特定多数</p>	<p>50,000</p>

(単位:円)

科目	金額		
1) 会費入会金収入 入会金収入および 会費収入	4,000,000	昨年 2021 年は目標 400 万に対し 3,833,100 円目標 95%の達成	★ 会員の増加を計る 会員患者に対し、本会存在の重 要性を知っていただく事が重要。 別紙参照
2) 補助金収入 公民間助成金収入	1,000,000	今年も日本財団助成事業を申請する。 昨年 は 1080000 円	★今年 8 期目申請、来 年受給を目指す
3) 寄付金収入	5,000,000	昨年 500 万の目標に対し 3070675 円 目標 60%達成 今年は 500 万円(理由別紙)	★ ポイント認定NPOの効果会 員患者に対し、本会存在の 重要性を知っていただく事 が重要。 別紙参照
4) 出版物販売(鞭打ち症 克服の実用書)売上収 入	500,000	50 万の目標に対し 3,826 円 今年発刊の可能性は高い為	★1 冊の本発刊予定 DVDを製作予定 時間がかかる
5) 依頼を受けた講演 セミナー収入講演セミナー	200,000	目標 20 万に対し 0 円で。 保険適用効果 を目指す活動計算書では業務委託費に計 上	今年 20 万円を目指 す
6) 患者相談収入及び病院 患者相談及び病院紹介事務手数料	100,000	目標 10 万円に対し昨年 50880 円。活動計算 書では業務委託費に計上	
7) その他の事業	700,000	裁判の場で使用する反対派の医師に対する意見 書の執筆を開始する。詳細は別紙昨年55万円	
雑収入	50,000	1)~7)の事業にあてはまらない収入	
収入合計(A)	11,550,000	前期繰り越し 13,106,280	合計(B)24,656,280

支出の部

(事業費) 「特定非営利活動事業」 資料の収集及び患者実態調査や 講習会セミナー開催費(各地方行 政への働きかけ活動)又脳脊髄液 減少症に関する情報発信及び活 動 脳脊髄液減少症に知名度普及活 動に関する事業	1,700,000		
「営利事業」 本会企画の出版物の販売費	100,000		
「営利事業」患者相談準備費	100,000		
その他の事業	50,000		
「助成金事業」	1,500,000		
(管理費)	6,000,000	給与・光熱費・家賃その他活動計算書を参照	事務員増員の諸経費

		してください昨年 5,422,565	
法定福利費	700,000	全国 NPO 平均所得を目指す昨年 445,416	
(予備費)法人税(県・市)和歌山県・市 東京都国分寺市	190,000	持続可能給付金などの法人税	
当期支出合計(C)	10,340,000		
当期収支差額(A)-(C)		1,210,000	
次期繰越差額(B)-(C)		1,4316,280	今年目標 14,316,280

2021 年度監査報告について

2021 年度 確定申告の書類(経理報告書) 其他会計報告はいずれも問題ない事を報告する。

監事 2022 年 2 月 15 日 署名 川野 忠昭

監事 2022 年 2 月 16 日 署名 友延 隆俊